

# 光の絹の道一統・高尾山着せ替え大作戦

杏林大学総合政策学部 木暮ゼミナール (2年)  
城下元志 夫津木侖奈 榎本梨乃 佐藤未麻 飯塚智有  
指導教員 木暮健太郎

<要約>八王子を代表する観光名所といえば、「高尾山」である。今後、大学生をはじめとする若者世代にも魅力的な場所にするためにも、自然と調和するイルミネーションのイベントを提案したい。イルミネーションには、「桑の都」八王子産のシルクを使った絹灯笼を用いて、主にケーブルカーの清滝駅周辺でのライトアップを考えている。

キーワード：高尾山，インスタ映え，絹灯笼，イルミネーション

## 1. はじめに

八王子といえば高尾山が有名である。海外からも足を運ぶ観光客も多い。しかし観光客を年齢別に見ると比較的中高年が多い。

そこで私たちは若者が高尾山に新たな魅力を加え、とくに若年層にアピールするスポットとするため、イルミネーションを実施することを考えた。

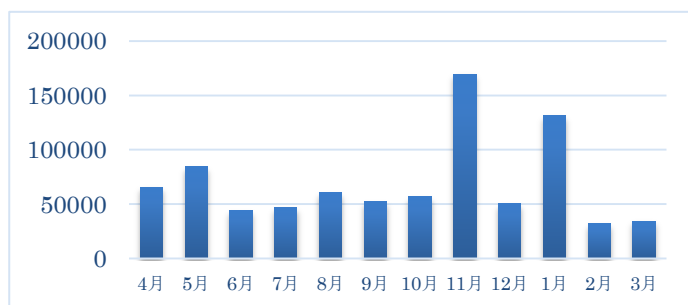
大学生を中心に、「高尾山にイルミネーションを使ったインスタ映えスポットがあったら行ってみたいと思うか？」というアンケートを行ったところ、約7割が行ってみたいと回答した。イルミネーションを活用すれば、若者が高尾山に足を運ぶのではないかと考える。

## 2. 現状

近年の高尾山の観光客数は、年間250万人前後と言われているが、紅葉シーズンと比較すると12月、1月になると減少傾向になるということが図1のグラフから読みとることができる。減少傾向にある1月だが、冬場の中では1月も観光客数が大幅に増加していることがわかる。その理由としては、高尾山にある薬王院が初詣の人気スポットであったり、初日を迎える迎光祭が行なわれたりするためであると言える。

いずれにせよ、12月に観光客が激減する高尾山では、イルミネーション等のイベントを実施することにより、クリスマスシーズンでの観光客数を増やすことができるのではないかと考えた。

図1 高尾山への乗降客数の推移



出典：高尾登山電鉄(株)資料

[https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kankobunka/006/p003199\\_d/fil/takaonosato\\_plan2.pdf](https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kankobunka/006/p003199_d/fil/takaonosato_plan2.pdf)

## 3. 提案

そこで、私たちが提案するのは八王子で有名な絹を使い作成した「絹灯笼」で装飾したインスタ映えするスポット、景観をすることである。より具体的には、(a)ケーブルカーの清滝駅および高尾山駅周辺でのフォトスポットの設置、(b)高尾山口駅から清滝駅までの歩道ライトアップ（光の絹の道）の2つを考えている。また開催期間は観光客数が減少する1

2月を予定している。

### 3-(a). 絹灯籠

絹灯籠とは、座繰りによって生糸を巻き付けることで作成する和風のイルミネーションである。この絹灯籠は、2017年12月に群馬県富岡市で行われた「富岡製糸場とまちなか光のおもてなし」で実際に使用されたものである。

写真1 絹灯籠



<https://we-love.gunma.jp/area/tomioka-2>

比較的に簡単に制作できることから、八王子市の幼稚園や保育園、あるいは小学校低学年の子どもたちも関わる事が可能だと考える。

また、自然環境の保護を重視する高尾山を考慮して、絹灯籠にはロウソクではなく、電池式のLEDライトを入れたい。絹でLEDライトを包み込むことで暖かみのある柔らか味のある光を演出したいと考えている。

### 3-(b). フォトスポット

また、SNSでの拡散効果も考え、いわゆる「インスタ映え」をするフォトスポットを設置したい。

写真2 フォトスポットのイメージ



<https://ameblo.jp/iwai-kentarou/entry-12337190896.html>

フォトスポットの詳しい設置場所は検討しなければならないが、①ケーブルカーの清滝駅周辺、②高尾山口駅周辺などを想定している。

### 3-(c). 「光の絹の道」

この絹灯籠は、並べて設置することで、より効果的なイルミネーションが可能となる。一般的なLEDによるイルミネーションと比べても、より自然と調和したライトアップになると考えられる。

写真3 通路脇に置かれた絹灯籠



<https://ameblo.jp/iwai-kentarou/entry-12337190896.html>

予算や許可等にも関係するが、「光の絹の道」を設置する場所としては、①清滝駅周辺のみ、②高尾山口駅から清滝駅までの数百メートルの歩道を考えている。

## 4. イベントの費用

本企画が実現すれば、高尾山の新しい魅力となり、多くの若者や観光客が訪れることが期待される。もちろん、このイベントにかかる予算についても検討する必要がある。現時点では、協賛する企業からの資金提供や、インターネット上で不特定多数の人から資金調達する仕組みとして近年注目されている「クラウドファンディング」を考えてみたい。